
研究活動の経緯

宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史的変遷に関する研究

—震災救出資料を中心として—

気仙沼市大島地区は昔から漁船漁業が盛んで、その技術は近隣からも高く評価され、この地方の漁業発展に大きく貢献してきた。明治期の和船時代といわれる時期には50人もの経営者がいたが、大正初期の機械船導入後は減少し10人程度となっていた。機械船の操船に免状が必要になると、当地の人たちは独学で学習し、船長・機関士の資格を取得してこの地方の漁船幹部職員として活躍した。平成3(1991)年には当地出身の漁船幹部職員は70人もいることが分かった。

しかし、今日のマグロ・カツオの遠洋漁業は厳しい環境にあり、大島では平成10(1998)年頃から新規乗組員はなくなっている。こうしたことから年とともにうすれていく当地の遠洋漁業の歴史を解明し、記録して保存するためにこの研究課題を設定した。今回「大島漁協文庫」の開設により漁業資料が整備されたので、この研究の中で震災救出資料を中心に地区内の資料や体験記録なども集めて活用するとともに、その保存と利用を検討することとした。

今日の遠洋漁業不振の時代に、これまでの漁業経営者や漁船員はどのようにして困難な状況を克服してきたのかを明らかにし、漁業関係者は勿論、地域の人々に遠洋漁業の振興を考える資料となることを期待している。

共同研究者・業務協力者一覧

	氏名	専門	所属機関
代表者	千葉 勝衛	漁業史	大島漁協文庫の会
共同研究者	蝦名 裕一	日本近世史	東北大学災害科学国際研究所
共同研究者	大川 啓	日本近現代史	神奈川大学日本常民文化研究所
共同研究者	小山由紀子	地域史	大島漁協文庫の会
共同研究者	川島 秀一	民俗学	東北大学災害科学国際研究所
共同研究者	菊田榮四郎	英米文学	大島漁協文庫の会
共同研究者	水上 忠夫	漁業史	大島漁協文庫の会
業務協力者	小野寺佑紀	民俗学	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

定例研究会報告

2016

第1回 定例研究会報告

日程：2016年4月30日(土) 午後1時～3時30分

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子

内容：

- (1) 共同研究応募の経過報告
- (2) 研究経費助成予算について
- (3) 平成28年度研究計画
- (4) 「大島村役場文書保存目録」について
- (5) 平成29年度研究計画の見通しについて

第2回 定例研究会報告

日程：2016年5月23日(月) 午後1時～3時30分

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子、
菊田榮四郎

内容：

- (1) 研究資料の検討
- (2) 「和船時代」の検討
・「和船」の定義とその規模、職制について
- (3) 次月の確認
・6月の水産研究・教育機構 中央水産研究所の調査について
・7月の検討項目

第3回 資料調査報告(中央水産研究所)

日程：2016年6月24日(金) 午後1時～4時、
6月25日(土)

調査先：国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所図書資料館(神奈川県横浜市)

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子

内容：

- (1) 村上茂夫家文書(目録730-1~8)から「共栄丸鯉船大漁経営帳」を中心に閲覧
- (2) 小山泰蔵家文書筆写稿本から、それぞれ「地形永代相渡文書」「大島村小名所付」「藤原氏小山家之由緒」の各稿と、同文書の謄写印刷本(昭和55年)との照合



中央水産研究所資料調査(横浜市)

第4回 定例研究会報告

日程：2016年8月1日(月)

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子、
菊田榮四郎

内容：

- (1) 「村上茂夫家文書」から、小山文市家(小田中山家)の遠洋漁業経営の沿革(大正5年~昭和13年までの沿革)について記録すべき点を精査し検討
- (2) 震災救出資料についての検討



大島漁協文庫にて



大島村役場文書の調査（大島漁協文庫）

川島秀一、蝦名裕一、大川啓

内容：

- (1) 外畑家文書の調査
- (2) 大島漁協文庫の見学
- (3) 研究協議（大島公民館にて）
 - ・ 神奈川大学 国際常民文化研究機構の共同研究の応募と研究計画について（別冊資料）
 - ・ 「震災救出資料」の活用
 - ・ 研究の分担と計画

第5回 定例研究会報告

日程：2016年9月26日（月）午後1時～4時

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子、
菊田榮四郎

内容：

- (1) 外畑文書目録第1集～第7集（印刷配布）
について
 - ・ 震災後に発見された文書目録（3～7集）
を中心に
- (2) 11月の定例研究会について
 - ・ 東北大学の川島・蝦名両先生を迎えたい
 - ・ 「和船時代」「外畑文書資料」を中心に



小山家（外畑）にて文書調査



大島公民館にて研究協議

第6回 定例研究会報告

日程：2016年10月24日（月）午後1時～4時

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子、
菊田榮四郎

内容：

- (1) 大正～昭和期 大島漁船統計について
- (2) 11月定例集会予定について

第7回 定例研究会報告

日程：2016年11月20日（月）午前10時～午後3時

場所：小山家（外畑）、大島漁協文庫、大島公民館

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎、

第8回 定例研究会報告

日程：2016年12月12日（月）午後1時30分～3時

場所：大島公民館

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、小山由紀子

内容：

- (1) 大漁唄い上げについて
 - ・ 録音していた音源をもとに添付資料としてCD化を検討
- (2) 漁村の習俗について
- (3) 次回までの収集活動について

2017

第1回 定例研究会報告

日程：2017年4月26日（水）午後1時～4時

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎

内容：

- (1) 平成29（2017）年度研究予定について
 - ・4～9月 機械船時代の漁業（大島における機械船の導入と経営、船舶職員の養成、徴用船のこと）など
 - ・10～翌3月 戦後の遠洋漁業（マッカーサーラインの撤廃、マグロ専用船の台頭と漁場の拡大、200海里問題と資源の国際管理）など
- (2) 出張調査予定（平成29年7月23日（日）日本海事センター（東京））について
- (3) 研究協議会（平成29年11月 川島秀一教授（東北大）、大川啓准教授（神奈川大））について
- (4) 平成29（2017）年度研究予算、研究図書の利用について
- (5) 「機械船時代の漁業」について
- (6) 大正～昭和前期「大島における遠洋漁船経営表」一資料収集
- (7) 徴用船についての資料収集

第2回 定例研究会報告

日程：2017年5月30日（火）午後1時30分～

3時30分

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎

内容：

- (1) 平成29（2017）年度出張調査について一徴用船関係調査
 - ・公益財団法人日本殉職船員顕彰会等
- (2) 徴用船の沿革と活動について検討

第3回 定例研究会報告

日程：2017年6月19日（月）午後1時30分～3時30分

場所：千葉勝衛宅

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎

内容：

- (1) 平成28（2016）年度購入「研究図書」についての研修

日本殉職船員顕彰会、中央水産研究所図書資料館ほか文献調査

日程：2017年7月5日（水）～7月6日（木）

場所：公益財団法人日本殉職船員顕彰会（東京都千代田区麴町）、神奈川県横浜市神奈川区、戦没船員の碑（神奈川県横須賀市観音崎公園内）、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所図書資料館（神奈川県横浜市金沢区）

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎

内容：

- (1) 公益財団法人日本殉職船員顕彰会（東京都千代田区麴町）での調査
- (2) 「戦没船員の碑」参詣と調査（横須賀市観音崎公園内）
- (3) 中央水産研究所図書資料館の閲覧と調査（小山文市家文書、村上茂夫家文書）



戦没船員の碑
（横須賀市観音崎公園内）



日本殉職船員顕彰会にて調査（東京・麹町）



神奈川大学日本常民文化研究所にて調査（横浜市）



中央水産研究所にて調査（横浜市）

第4回 定例研究会と文書整理作業

日程：2017年8月25日（金）～8月27日（日）

場所：浦の浜自治会館（気仙沼市浦の浜）、小山家

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎

内容：

- (1) 研究のまとめと報告書についての計画
- (2) 執筆分担と執筆予定について
- (3) 小山家（外畑）文書の整理と利用について
- (4) 徴用船資料について
 - ・防衛省防衛研究所図書館所蔵「22 戦隊戦闘日誌」一國宮丸、海形丸、工進丸、岩手

丸、開運丸等

(5) 11月の研究会の予定について



小山家（外畑）文書整理作業（浦の浜自治会館）



小山家（外畑）文書整理作業

第5回 定例研究会報告

日程：2017年9月25日（月）午後1時30分～3時

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎、水上忠夫

内容：

- (1) 外畑家文書第2集の確認について報告
 - ・同家で所蔵していたが前回まで確認できなかった120点を9月5日に発見、整理作業を行う。
- (2) 徴用船資料について
 - ・防衛研究所所蔵「第1～6監視艇対戦時日誌・戦闘詳報」について
 - ・工進丸の監視行動表と戦闘詳報、生存帰還者の手記について
- (3) 「戦後の遠洋漁業」について
 - ・大島の漁船経営者「前川漁業部」について

- ・各船の船頭と船長について
 - ・帳場（事務所）について
 - ・乗船者の話や資料について後継者などからの聞き取りの検討。
- (4) その他（11月の定例会など。研究のまとめ方について指導を受ける）

第6回 定例研究会報告

日程：2017年10月23日（月）午後1時30分～3時30分

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎、水上忠夫

内容：

- (1) 昭和20年～昭和40年代の気仙沼地方のカツオ漁について
 - ・マッカーサーラインの制約等
- (2) 賃金改善への運動について
 - ・歩合制度の改善や大仲経費方式について
 - ・昭和24年農林省実施「気仙沼地方のカツオ船調査」について等
- (3) 航海日数について

第7回 定例研究会報告

日程：2017年11月19日（日）午前10時～午後3時

場所：大島漁協文庫・大島公民館

参加者：千葉勝衛、水上忠夫、川島秀一、蝦名裕一、大川啓

内容：

- (1) 震災救出資料の利用について（漁協文庫）

- ・大島遠洋漁業者組合資料、旧大島村役場資料、『菅原熊治郎文書集（上・下）』等の調査
- (2) 共同研究「大島遠洋漁業史」の研究紀要のまとめについて
- ・研究の経過と反省を中心に書く予定
 - ・気仙沼、大島の遠洋漁業の将来像について結論を出すことは不可能な実情である



大島公民館にて研究協議

2018

第1回 定例研究会報告

日程：2018年5月14日（月）午後1時30分～3時

場所：大島漁協文庫

参加者：千葉勝衛、小山由紀子、菊田榮四郎、水上忠夫

内容：

- (1) 「研究のまとめ」について
- (2) 研究報告書の構想について
- (3) 原稿の整理と校正について



被災した書架から運び出された資料



大島小学校体育館等で行われたクリーニング作業



資料に付着した泥や砂を慎重に取り除く



救出された段ボール約300箱分の資料群



工学部建築学科重村・三笠研究室との協働で完成した大島漁協文庫

気仙沼大島漁業史文庫プロジェクト

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市大島では、神奈川大学日本常民文化研究所と歴史民俗資料学研究所大学院生らにより、被災した「大島漁業協同組合資料」約4,000点の救出活動が行われた。救出された段ボール約300箱分の文書群は乾燥・クリーニング処理が施され、2016年2月、新たに落成した大島漁協文庫に収蔵。現在、この大島漁協文庫は漁協資料の保全や研究拠点のみならず、大島の文化発信の拠点として活用されている。



整理・分類された漁協資料（旧役場文書）



大漁カンバン

(村上守正家所蔵)

〈上〉昭和15(1940)年頃

〈下〉明治末期